

全東京の印刷工諸君！及び 全市民諸君に訴ふ！

印刷工諸君並に市民諸君よ！

我々印刷工の最低賃銀は僅か月に卅五圓位である。

諸君！最小限度の生活ですら、卅五圓位では、到底支へて行く事が出来るものではない。之は恐らく誰だつて否定する事は出事ないだらう。我々はこの安い賃銀で朝から晩まで、夜から朝まで十七八時間も、ほこりと汗と油にまみれて資本家の腹を肥すためにこき使はれなければならないのだ。

我々はこの状態を今少しでも良くする爲めに、その賃銀の値上と時間短縮と待遇改善を要求して、朝日と國民と相應じてその資本家に對して立ちあがつた。

然るに常々正義人道、公明正大を標語としてゐる新聞社の資本家は、この我々の正當な最小限度の要求を一撃のもとにはねつけた。あゝ何の正義人道ぞ！何の公明正大ぞ！

我等も人間である。人間が人間として生きて行くための保證を與へられてゐず、たゞ働くことをのみ強制せられてゐる今日の資本家萬能の社會に、そうして、文明と文化と公正を標榜して立つ新聞社に向つて、彼等がいかに非人道的偽瞞的人道主義者であり、大詐僞師であるかを暴露すると同時に、我等の生活のために、生きんがために叫ぶこの正義の要求を貫徹せんがために我等新聞印刷工は立ちあがつたのである。

諸君！吾等がこの正義のためにする勞資の闘争は、道學者的な「公共」の名のもとに決して不名譽とせられるものでないことを固く信ずる。
むしろ我等こそ無産大衆の公共の利益のために立ちあがつたのである。

市民諸君並に印刷工諸君！

我々がこの決死的な争議に對して諸君の熱誠な同情と應援とを得たい。

十三年六月二十日

朝日新聞社争議團
國民新聞社争議團

芝區三田四國町二ノ二 日本勞働總同盟本部内

應援 關東印刷勞働組合

小石川區丸山町三十八(電話小石川五八二三)